

編集後記

本誌を刊行するにあたって、記録にとどめておきたいことが2つある。

1つは、本誌のタイトルを『研究年報』から『一橋大学スポーツ研究』に変更したことである。今年5月の研究室会議で研究部が行った、各人の論考・研究ノートに欧文の表題を付けようという提案が、改題のきっかけとなった。研究動向のグローバル化を意識してのことであった。6月の会議において、欧文の誌名を「Hitotsubashi Annual of Sport Studies」とすることが了承され、さらに、この時、メンバーのなかから、邦文の誌名を欧文タイトル対応させること、現行の『研究年報』というタイトルは抽象的すぎるのでより具体的なものにする、という要望が出された。研究部では、当初、邦文タイトルの変更までは考えていなかったが、上述の要望を引き取り、7月の会議で『一橋大学スポーツ研究年報』という誌名を提案し、承認を得た。その後、さらに検討を加え、『一橋大学スポーツ研究』とすることにしたのである。最終段階での変更は、本学で刊行されている他の研究年報との整合性を考慮し、かつ、美感を意識してのことであった。

解題をめぐる経過については、以上のように説明することができる。解題の意図は、かならずしも高邁な思想にもとづくものではなく、テクニカルなものであったといってよい。個人的には、継承性・一貫性という意味において、旧名に郷愁を感じてもいる。だが、欧文名については、私事で恐縮だが、自負がないではない。Annualは社会史研究のアナル派を、Studiesはカルチュラル・スタディーズを、意識していたからである。いずれにせよ、さまざまな思いが入り乱れての解題であった。スポーツ科学研究室の「共同研究」が、これを契機に、新しい創造のときを迎えることを願っている。

さて、この『一橋大学スポーツ研究』には、文部科学省科学研究費補助金を得て昨年度から実施しているわれわれの共同研究の成果が収録されている（研究課題名「スポーツのグローバル化とローカリゼーション」、基盤研究(C)(2)、課題番号 14580021-00、研究代表者 上野卓郎）。本誌のサブタイトル「グローバル化とスポーツの諸相」は、そうした事情と、共同研究の進行状況を示している。来年は、3年計画の最終年度にあたる。さらなる飛躍をめざしたい。（研究部・高津 勝）

一橋大学 スポーツ研究

Vol.22

グローバル化とスポーツの諸相

2003年9月1日 発行

編集・発行 一橋大学スポーツ科学研究室

〒186-8601 東京都国立市中2-1

042-580-8270

www.higashi.hit-u.ac.jp/~sports/
